

<水稻の栽培ポイント>

生育状況

普通植とちぎの星・あさひの夢は8月下旬に出穂期を迎えました。気温が平年並に推移していることから、普通植の生育の遅速は平年並と予想されます。

収穫時期を迎える10月上旬～中旬の天気は数日周期で変わりますが、気温は平年並～高い見込みで、降水量は平年並と予想されます。また、出穂初期の気温が高く推移したことから、胴割米等の被害粒の発生が懸念されます。

早めに刈取り準備を行い適期に収穫できるようにしましょう。

1 刈取り準備

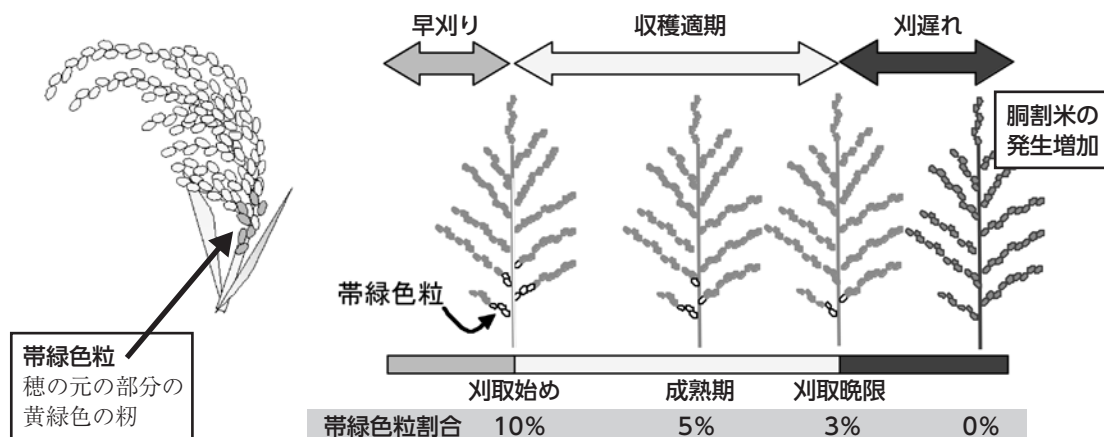
- ・コンバインや乾燥調製機等の清掃整備を行い、異種穀粒・異品種の混入が無いようにしましょう。きちんと掃除したつもりでも、機械の中にはゴミが驚くほど残留しています。
- ・圃場内の雑草は刈取り前に抜取り、雑草の種子が混入しないようにしましょう。ライスセンターでは雑草種子などの夾雑物の多いものについては荷受をお断りする場合があります。

2 適期収穫

収穫作業は、帯緑色粒率が10%になったら開始し、3%になるまでに終了しましょう。刈り遅れの無いよう注意してください。刈り遅れると胴割米の発生、色沢・品質・食味の低下を招きます。また早刈りは青米が多くなり減収となりますので注意しましょう。

【刈取適期の判定方法】

- 平均的な生育をしている数か所で5～6本の穂をまとめて握ってみます。
- 穂全体に占める帯緑色粒の割合で判定します。10～3%が刈取適期です。



3 新規需要米について

新規需要米についても、主食用米と同様に刈取り準備、圃場内の雑草の抜取りを行いましょう。

(裏面あり)

<麦類の栽培ポイント>

麦は全栽培期間を通じて湿害を受けやすい作物です。湿害対策等の基本技術を徹底し、高品質麦の生産に取り組みましょう。

1 湿害対策の徹底

- (1)播種直後は湿害に特に弱いので、稲刈り後の弾丸暗渠による早期の排水性向上が有効です。スタブルカルチ等を活用した心土破碎も圃場の排水性を良くします。
- (2)地表水の排水のための明渠を設置します。明渠は必ず圃場外の排水路とつなげてください。

2 土づくりと施肥

- (1)地力増進のため、良質な堆肥を10a当たり1,000kg程度施用しましょう。また、土壤診断を行い、診断結果に基づいて苦土炭カル、輸入ようりん、OM-37等を施用し土壤改善に努めましょう。
- (2)タンパク質含有量が低い場合の施肥は、肥効調節型肥料（JA足利麦専用「麦の香」等）を使用しましょう。
小麦はタンパク質含有量が低い傾向にあります。基準施肥量（窒素成分10～12kg/10a）を参考に、R3年産の成績に応じた施肥設計をしましょう。

3 適期播種・種子消毒

**【播種期間の目安】 二条大麦：11月10日～25日 小麦：11月10日～20日
二条裸麦：11月10日～15日**

気象庁の季節予報（1か月、3か月、寒候期予報）を参考にし、播種時期を決めましょう。

また、大麦斑葉病や小麦なまぐさ黒穂病などの種子伝染性病害予防のため、種子消毒を必ず実施しましょう。（例：ベンレートT水和剤20、ペフラン液剤25）

4 雑草防除

播種後に除草剤の全面土壌処理を行います。

令和3年9月10日時点での登録内容

雑草の種類	除草剤名	使用時期
一年生雑草	ボクサー	播種後～麦2葉期まで 但し、小麦は麦4葉期まで(雑草発生前～雑草発生始期)
	リベレーターフロアブル	播種後～麦3葉期まで (雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)
	リベレーターG	播種後～麦2葉期まで (雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)
	ムギレンジャー乳剤	播種後～出芽前(雑草発生前)
	クリアターン乳剤	播種直後(雑草発生前)
一年生雑草 (ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	トレファノサイド乳剤	播種後～出芽前(雑草発生前)または生育期(雑草発生前)ただし収穫45日前まで

※ボクサー・リベレーターフロアブル・リベレーターG・ムギレンジャー乳剤は、抵抗性スズメノテッポウに効果を発揮します。

※除草剤（農薬）を使用する時は、ラベルの表示を確認して適用作物・使用時期・施用薬量を守り正しく使用してください。